



石見銀山
WORLD HERITAGE

2006

石見銀山行動計画策定

2007

世界遺産登録

2012

世界遺産登録5周年

2017

世界遺産登録10周年

2022

世界遺産登録15周年

石見銀山スタイル
官民協働の持続可能な地域づくり

石見銀山行動計画

中間報告

～計画策定からこれまでの取り組み～

2024

2027

世界遺産登録20周年

< ; : 9

〒700-0000

〒700

特定非営利活動法人 石見銀山協働会議

協力: 大田市石見銀山課 / 島根県文化財課世界遺産室

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の今・・・

石見銀山行動計画は平成 18 年に官民協働により策定された事業計画です。この石見銀山行動計画に基づき、保存管理や調査研究、情報発信、受入体制整備、活用に関わる事業が行政と民間の協働により、進められてきました。事業実施にあたっては、民間からの寄附によって支えられている石見銀山基金も有効に活用されています。

一方、策定から 18 年が経過し、策定当時とは社会情勢などが変化しています。令和 2 年にはじまった新型コロナウイルス感染症の拡大は策定当初は全く想定できないものでした。また、平和と人権を尊重するユネスコの精神に加え、SDG s（持続可能な開発目標）や多様性の尊重などの理念を取り入れることも求められるようになってきています。

石見銀山の状況に目を向けると、令和 2 年 6 月の日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」の

認定、令和 3 年 3 月の（一社）大田市観光協会の登録観光地域づくり法人（登録DMO）登録、そして令和 6 年度には出雲―多岐間の高速道路の開通が予定され、観光面でのインフラや体制整備が進みつつあります。加えて、（一社）石見銀山みらいコンソーシアム、温泉津みらい合同会社、馬路おこし会等の民間団体が設立され、まちづくり活動も活性化しています。

今回、世界遺産登録以降の官民協働によるこれまでの取り組みをふり振り返り、上記の社会情勢の変化を念頭において、未来に向けて石見銀山行動計画の「今」を整理しました。石見銀山は令和 9 年に世界遺産登録から 20 年、石見銀山発見から 500 年の節目を迎えます。この節目の年に向けて、協働による石見銀山の将来像を描く参考になれば幸いです。

・・・・・・・・・・・・・・・・

「平和と人権の尊重」 ユネスコの精神を基盤に

ユネスコは教育や科学、文化活動を通じ、世界中の人間が差別なく、尊重される「平和な地球社会の実現」を目的にしています。

中世から近世に繁栄した石見銀山には、さまざまな身分・職業の人たちが働き暮らす鉱山町が形成され、今に続く人権課題である、身分のちがいによる差別がありました。

ユネスコの世界遺産となった石見銀山では、こうした歴史をふまえ、人権の尊重や差別の解消に向けて、調査研究、教育啓発、情報発信などの取り組みを進めています。



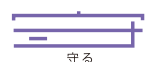
石見銀山行動計画



2005~2006 年にかけて「石見銀山協働会議（プランナー会議）」によって策定されました。



石見銀山行動計画ダイジェスト版



守る



伝える



究める



招く



活かす



石見銀山を守るために

保存管理

地域全体で石見銀山の保全管理を行うとともに、住民と来訪者がともに遺産（遺跡）と共生できる環境作りに取り組んでいます。

現状と課題

石見銀山遺跡については、法令や行政計画等に基づく保存管理が義務付けられており、遺跡の保存管理の基本となります。また、遺跡の維持・保全は、行政だけでなく地域住民をはじめとした多くの人々に協力してもらう必要があります。石見銀山の最大の価値は、自然と共生した鉱山町の景観が「文化的景観」として、今もなお継続して暮らしている点にあります。来訪者にも保全の取り組みを十分理解してもらい、地域住民にとって負担の少ない調和のとれた観光地を構築していくことが課題です。

1、基本的な保存管理

世界遺産地域のコアゾーン（核心地域）は文化財保護法に、バッファゾーン（緩衝地域）は石見銀山景観保全条例に基づき、保存管理が義務付けられています。また、大田市には2つの重要伝統的建造物群保存地区があり、大森の町並みは鉱山町、温泉津の町並みは港町・温泉町として国の選定を受け、それぞれが世界遺産における重要な構成資産となっています。それぞれの遺跡や建造物ごとに、適切かつ具体的に保存管理計画が定められており、着実に保存事業に取り組んでいます。



ボランティア清掃

2、石見銀山ルールの設定

環境保護、景観保全のためゴミの持ち帰りの推進や、パーク＆ライド方式の観光推進などの関連マナーの明示や地域ルールを設定を行い、地域住民と来訪者がともに、気持ちよく過ごせるように官民協働で取り組んでいます。また、来訪者に理解してもらえるように、関連マナーやルール等の適切な情報発信を行っています。



大森町住民憲章

3、維持・保全活動の充実

遺跡の維持・保全活動が、地元住民や民間団体、企業、行政により、継続的に行われています。石見銀山協働会議では保全活動の相談窓口を担っており、連絡調整などのサポートを行っています。また、持続的な保全活動の必要性を啓発するため、市民参加の保全活動「クリーン銀山」の実施を継続しています。



クリーン銀山

4、石見銀山基金の運用

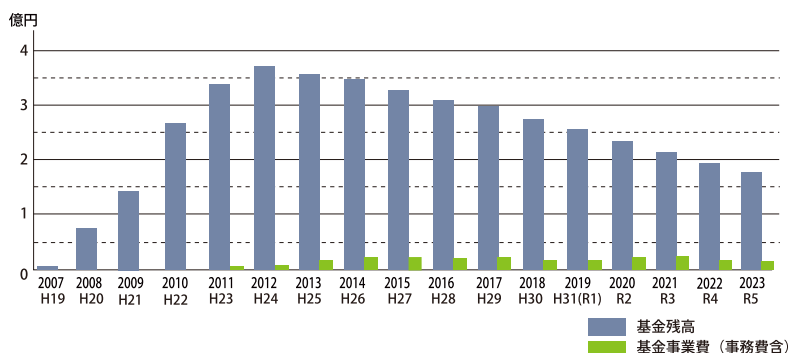
石見銀山基金は平成19年度に設置され、個人、企業などからの寄附を受け付けています。また、ご当地WAON「石見銀山WAON」の利用金額の一部や、自動販売機の売上金額の一部などの寄附も貴重な財源となっています。

石見銀山基金は、児童・生徒が故郷に愛着と誇りを持ち、豊かな人間性を育む「石見銀山学習」、クリーン銀山などの「保全活動」、歴史的な建物や貴重な史跡をはじめとする遺跡地内の「文化財修復」などの取り組みに活用されています。



石見銀山 WAON カード

石見銀山基金の推移



発信 石見銀山の多様な価値を理解してもらうために、 地元での学習機会の提供や情報発信体制の整備を行っています。

現状と課題

石見銀山に関心を持ってもらうためには、まず石見銀山に関する認知を高めることが必要です。地域全体での情報発信を進めるためには、学校・地域での学習機会の確保が重要であり、その活動が地域のホスピタリティや遺跡の保全意識の向上にもつながっていきます。

1、プロモーションの推進

石見銀山の情報発信は、行政のみならず、民間が主体となったホームページやパンフレット、情報誌などによって発信され、地域全体で石見銀山のプロモーションを推進しています。また、世界遺産登録5年、10年、15年の節目に周年事業も行われ、官民が協働しながら、市内外へのPR活動や調査研究成果の発表などが行われています。



大田市観光サイト

2、教育・普及活動の推進

石見銀山の副読本などの学習教材が作成され、小中学校で活用されています。また、現地訪問も含めた石見銀山学習が市内小中学校の全校で実施されています。学習内容の充実を図るため、市内小中学校の教職員を対象に石見銀山学習会が行われています。市外からも修学旅行などの校外学習で石見銀山を訪れてもらえるように、島根県観光連盟では教育旅行PR用のパンフレットや動画を作成し、誘致を図っています。

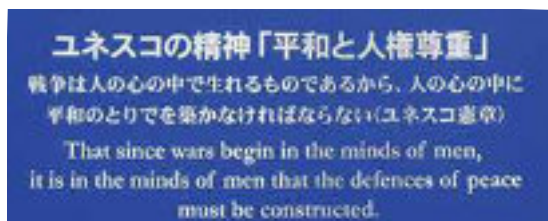


石見銀山学習

3、人権教育・啓発、SDG sの推進

「平和と人権尊重」のユネスコの精神を基底に据え、人権情報を発信しながら人権意識の高揚を図っています。大田市では、ユネスコの精神に基づき、「一人ひとりの人権が尊重される、心豊かな共生社会」の実現を目指しています。

また、世界の大きな潮流に「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDG s）」があります。SDG sの内容はどれも「人が生きること」と関連しており、人権尊重の考え方がベースにあります。石見銀山の施設等では、SDGsについても学ぶ機会を提供しています。

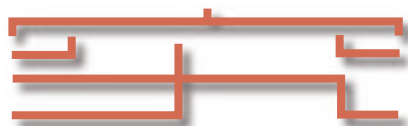


4、デジタルコンテンツの活用

石見銀山遺跡は、大部分が山地であり、また遺跡の重要な部分は地下にあるため、実際に全容を見ることが難しく、遺跡の価値を理解しにくいと言われます。こうした課題解決のため、VRやARなどのデジタルコンテンツを取り入れ、遺跡の価値の理解促進に努めています。今後もデジタル化が進むと予想されることから、引き続き、新たなデジタル技術を効果的に取り入れ、活用していきます。



VRシアター（石見銀山世界遺産センター）



石見銀山を究めるために

調査研究

石見銀山について基礎的、総合的な調査研究を行い、これをわかりやすく報告・公開し、遺跡の理解や保全と活用に繋げています。

現状と課題

石見銀山遺跡は、解明されていない部分も多く、多種多様な史資料が膨大にあるため、今後も専門の職員による継続した調査研究を行っていくことが必要です。
また、史資料を保管し、とりまとめ、わかりやすく情報提供を行い、活用へと繋げていく取り組みが重要です。

1、基礎的調査研究

平成8年より、行政が主体となり、発掘調査や石造物調査、科学調査、文献調査などの基礎的な調査を継続して行っています。また、石見銀山遺跡の価値を追究するため、考古学、文献史学、自然科学分野の研究を相互に連携させながら、鉱山技術や鉱山経営の実態把握を進めています。まだ究明の必要部分が多く、これまでの成果を踏まえた厚みのある調査研究を継続していくことが必要です。



石見銀山歴史文献調査の様子

2、テーマ別調査研究

基礎的調査研究に加えて、「社会構造と文化」、「銀の流通」、「世界の鉱山との比較」「最盛期石見銀山の復元」「温泉津」など、地域や時代等のテーマに則って、調査研究を行ってきました。

石見銀山遺跡は、鉱山技術史や交易・経済史のみならず、鉱山遺跡ならではの複合的で多様な価値を持っており、テーマごとに、なおかつ学際的にその価値を多角的に検証し、顕在化していくことで、遺跡の価値の理解を促進させ、石見銀山遺跡に対する一層の関心と愛着を高めていきます。



鉱山比較研究を進めるボリビアのポトシ銀山

3、調査研究の総合調整機能の確立

石見銀山世界遺産センターは調査研究に関する情報を集約し、発信する中心的役割を担っています。鉱山史に関する書籍や資料の集積を進めることで、国内を代表する鉱山研究拠点としての機能を確立させていくことが必要です。石見銀山資料館でも資料の収集と保存、調査研究、教育普及などの事業が行われ、また、官民の連携研究を発展させる市民研究家の育成をめざして「石見銀山研究会」などの活動も始まっており、官民で協力して調査研究、保全と継承を進めています。



4、調査成果の公開活用

調査研究成果については報告書・報告会などで公表しているほか、発掘調査や建造物修理に伴う現地説明会を開催し、一般の興味関心を高めるなどの取り組みを行っており、また、石見銀山遺跡をわかりやすく紹介する概説書『石見銀山学ことはじめ』も発行されています。また、ポーランドや台湾、ベトナム等との交流も行っており、国内のみならず、海外への情報発信のための連携や共同研究、国際学会での発表など、石見銀山の学術的価値を公開していくことが必要です。



公開講座（ここまでわかった石見銀山）



発掘調査説明会

**受 自然環境と住民の暮らしに配慮しながら、来訪者の知的
好奇心の充足や、観光行動の利便性を高めるための受入
入 体制を整えています。**

現状と課題

石見銀山の全体像を理解するためのガイド施設の整備、来訪者がスムーズに巡るためのモデルコースの設定のほか、来訪者の満足度を向上させるためのガイド体制の充実が重要です。来訪者に対して、石見銀山遺跡の持つ多様な側面を伝え、何度でも来てもらえるような工夫が必要です。

1、ガイダンス機能の整備

石見銀山遺跡の総合的なガイダンス施設として、大森町には「石見銀山世界遺産センター」が、鞆ヶ浦にはサテライト施設として「鞆館」が整備されています。また、大森の町並み来訪者のエントランス施設として「いも代官ミュージアム（石見銀山資料館）」があります。このほか、当時の暮らしを伝える施設として「熊谷家住宅」や「旧河島家」、「宗岡家」、坑道跡を見学できる施設として「龍源寺間歩」、「大久保間歩」、温泉津の歴史を伝える施設として「ゆう・ゆう館」が整備されています。



いも代官ミュージアム（石見銀山資料館）

2、ガイド体制の強化

石見銀山ガイドの会により、石見銀山のガイドが行われ、来訪者から高い評価を得ています。インバウンド需要の高まりに対応するため、英語でのガイドにも対応しています。ガイド養成講座を開催するなど、ガイドの確保に取り組んでいますが、ガイドの高齢化や人材不足等の課題があります。



ガイド養成講座

3、来訪者の誘導

石見銀山世界遺産センターでは、大森の町並みや銀山地区、温泉津、仁摩への総合的な案内を行っています。大森、温泉津、仁摩、JR 大田市駅には、観光案内所が設置されており、来訪者へ観光情報

の提供や道案内などを行っています。大森町ではパーク＆ライド方式の観光が推進され、グリーンスローモビリティ（時速 20km 未満で走る電気自動車）が運行されています。また、大田市観光サイトでは観光モデルコースを掲載しており、石見銀山のおすすめの巡り方を提案しています。



グリーンスローモビリティ

4、地域全体での観光地域づくり

令和 3 年に（一社）大田市観光協会が「登録観光地域づくり法人（登録 DMO）」に登録され、これまでの行政主導の観光振興から、地域で取り組む観光地域づくりに少しずつ移行しています。また、多様な課題解決に取り組む地域団体も出来てきており、大森町では（一社）石見銀山みらいコンソーシアム、温泉津町では温泉津みらい合同会社、仁摩町では馬路おこし会などにより地域一体となった観光地域づくりが進められています。

5、安全対策の推進

石見銀山を安全に安心して訪れられるように、行政が主体となって、文化財保護、景観の調和を図りながら環境整備を行っています。過去に整備が行われた箇所では、老朽化が進んでいる部分もあり、継続したメンテナンス及び更新が必要です。また、民間ではレンタサイクル利用者のヘルメット着用促進を図っています。



安全対策工事前



安全対策工事後



石見銀山を活かすために

活用 今ある地域の資源を見つめ直し、素材を十分に活かすことにより、石見銀山の価値を高める事業や市民による活動が進められています。

現状と課題

石見銀山遺跡には、遺跡以外にも「暮らし」、「文化」、「伝統芸能」など、多様な資源がありますが、これらを活かしきれいていません。また、空き家が増加傾向にあり、これも一つの資源として、地域で活用することが必要です。

1、石見銀山の資源を活用した商品化

石見銀山最大級の坑道跡「大久保間歩」では、一般公開限定ツアーが行われており、ツアーを通じて遺跡の価値を体感できます。また、重要文化財熊谷家住宅や武家屋敷等での昔の暮らし体験も石見銀山の資源を活用したコンテンツとなっています。お土産品では石見銀山を冠したものや石見銀山にゆかりのある「さつまいも」や「梅」などを使ったものなど、石見銀山関連商品が開発されています。



大久保間歩

2、文化財の活用

石見銀山では文化財の活用も進んでおり、熊谷家、河島家のような展示だけでなく、宗岡家、阿部家等は宿泊施設、渡辺家は保育園・放課後児童クラブとして活用されています。また、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」が令和2年に認定され、「石見銀山遺跡（仙ノ山の福石鉱床）」をはじめ、石見銀山関連のものも日本遺産の構成文化財となっています。世界遺産だけでなく、日本遺産としての取り組みも進められています。



重要文化財熊谷家住宅

3、空き家の活用

大田市では、空き家の情報を収集し、発信する「空き家バンク制度」により、空き家の活用を促進しています。また近年では、住居としてだけでなく、ゲストハウスやシェアキッチンとして空き家を活用する事例もあり、地域の活性化につながっています。また、「石見銀山まちを楽しくするライブラリー」は、ライブラリー・カフェ兼コワーキングスペースで、島根県立大学のサテライトキャンパスとしても活用されており、若者と地域の交流の場となっています。



WATOWA



石見銀山まちを楽しくするライブラリー

4、芸術文化分野での活用

石見銀山を題材とした創作オペラ「オペラ石見銀山」、創作神楽「井戸公」など、芸術文化分野でも石見銀山の資源が活用されています。また、石見銀山を舞台とした千早茜著『しろがねの葉』が第168回直木賞を受賞し、多くの来訪者が訪れるきっかけとなりました。芸術文化分野で活用されることで、多くの方に石見銀山の歴史や文化を身近に知ってもらう契機となっています。



オペラ石見銀山

世界遺産 石見銀山のあゆみ

1957	昭和 32	4 月	大森町文化財保存会結成	
1966	昭和 41	7 月	大森観光開発協会が発足	
1969	昭和 44	4 月	代官所跡、龍源寺間歩など 14 箇所が国指定史跡となる／石見銀山遺跡愛護少年団結成	
1976	昭和 51	8 月	石見銀山資料館開館	
1987	昭和 62	12 月	大森の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定	
1989	平成元	7 月	龍源寺間歩の公開開始	
1995	平成 7	11 月	島根県知事が世界遺産登録を目指して検討を進める意向を発表	
2000	平成 12	1 月	石見銀山観光ボランティアガイドの会（現 石見銀山ガイドの会）設立	
2001	平成 13	4 月	世界遺産暫定リスト登載	
2004	平成 16	7 月	温泉津の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定	
2005	平成 17	6 月	第 1 回石見銀山協働会議全体会開催	
2006	平成 18	1 月	国からユネスコの世界遺産センターへ提出された推薦書が正式に受理	
		3 月	石見銀山行動計画策定	
		4 月	重要文化財熊谷家住宅の公開開始	
		10 月	イコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査	
2007	平成 19	5 月	イコモスの評価結果が示され、「登録延期」の勧告がなされる	
		7 月	第 31 回ユネスコ世界遺産委員会で登録が決定（国内 14 例目、鉱山遺跡としてはアジア初）	
		9 月	世界遺産登録記念シンポジウム	
		10 月	石見銀山世界遺産センター「ガイダンス棟」オープン	
		11 月	世界遺産登録記念イベント「創作能・石見銀山」	
		12 月	大森、銀山の町並み周辺の山林が重要伝統的建造物群保存地区に追加選定される	
2008	平成 20	2 月	石見銀山基金募金委員会設立	
		4 月	大久保間歩一般（限定）公開開始	
		9 月	大田市が人権尊重都市を宣言	
		10 月	石見銀山世界遺産センターフルオープン	
		11 月	石見銀山世界遺産センター展示室入場者 1 万人突破	
		12 月	石見銀山公式マーク発表（石見銀山協働会議ブランディング委員会）	
2009	平成 21	4 月	ご当地 WAON「石見銀山 WAON」発行開始	
		6 月	辻が花染丁子文道服（再現品）一般公開	
		9 月	渡辺家住宅保存修理工事完了	
		12 月	温泉津の町並みに接する温泉津湾の一部が重要伝統的建造物群保存地区に追加選定される	
2010	平成 22	3 月	大森の電柱地中化工事完了	
		4 月	NPO 法人石見銀山協働会議設立	
		8 月	世界遺産の登録範囲拡大をユネスコが承認	
2012	平成 24	1 月	世界遺産登録 5 周年事業で大田市マスコットキャラクターに「らとちゃん」が選ばれる	
		4 月	鞆ヶ浦に石見銀山世界遺産センターのサテライト施設「鞆館」がオープン	
		7 月	登録 5 周年記念式典、記念フォーラム開催	
2013	平成 25	1 月	世界遺産学習全国サミット（奈良）で大森小学校が発表	
		7 月	大森町文化財保存会へ文化庁長官感謝状	
2014	平成 26	6 月	大田市人権尊重のまちづくり条例制定	
		9 月	石見銀山世界遺産センター来館者 100 万人達成	
		11 月	世界遺産学習全国サミット（奈良）で仁摩小学校が発表	
2015	平成 27	3 月	沖泊恵比須神社保存修理工事完了	
2016	平成 28	7 月	石見銀山世界遺産登録 10 周年 1 年前イベント開催	
		11 月	世界遺産学習全国サミット（平泉）で第三中学校が発表	
2017	平成 29	7 月	世界遺産登録 10 周年記念式典	
		7 月	大久保間歩公開区域拡大（福石場）	
		7 月	オペラ「石見銀山」初演	
		11 月	第 4 回世界遺産サミットを大田市内で開催	
		11 月	第 8 回世界遺産学習全国サミット in おおだを開催	
2018	平成 30	3 月	大森代官所地役人遺宅宗岡家保存修理工事完了	
		4 月	大田市東部を震源とする島根県西部地震が発生	
2019	平成 31	3 月	金森家住宅保存修理工事完了	
		3 月	土橋章宏著『いも殿さま』発刊	
	(令和元)	10 月	オペラ「石見銀山」東京公演	
		12 月	大森町でグリーンスローモビリティ（ざんざんカート）運行の実証実験開始	
2020	令和 2	6 月	「石見の火山が伝える悠久の歴史」が日本遺産に認定	
2022	令和 4	3 月	青山家保存修理工事完了	
		7 月	世界遺産登録 15 周年記念イベント（土橋章宏氏講演・パネルディスカッション）開催	
		9 月	世界遺産登録 15 周年記念フォーラム開催	
		11 月	世界遺産登録 15 周年記念講演会（近藤誠一氏講演）開催	
2023	令和 5	3 月	豊米神社保存修理工事完了	
		4 月	千早茜 著『しろがねの葉』直木賞受賞記念 トークイベント開催	
		4 月	ご当地 WAON「石見銀山 WAON」の新デザイン発表	
		9 月	海外鉱山遺跡事業で訪問団 5 名が「タルノフスキェ・グルィ鉱山」（ポーランド）を訪問	

